

## ●…刊行のことば

核医学はデジタル画像の幕開けから50年を経過してさらなる発展を遂げた。その結果、最先端の画像を臨床に応用でき、私たちの身近な存在になっている。一方で核医学は他の画像診断のモダリティとともに安全で素早く処理することを求められるようになり、検査そのものだけでなく、組み立て方、アルゴリズム、画像処理方法、読影など習得する内容は多岐にわたっている。特に近年、悪性腫瘍のイメージングにはハイブリッド型FDG-PET/CTが多くの臨床現場で導入され、診断に大きな力を発揮している。このため核医学のみならず画像診断の知識の習得も必要になっている。

本書の目的は、これから核医学を学ぶ学生を対象に、診断の考え方、検査の原理、臨床応用、被ばく概念などについて臨床で遭遇する頻度の高い事柄について平易にわかりやすく解説することにある。本書「医療系のための画像診断・核医学検査ベーシック」を読むと核医学の全体像が短時間で把握できるように構成されている。

本書の構成は、第1章で総論として医療被ばく概念や核医学・画像診断の検査について解説している。放射線医学についての広い知識も習得することができる。第2章として脳・心臓、第3章として骨・肺・腫瘍、第4章として内分泌・消化器・腎の臨床的頻度の高い重要な検査について各論で解説している。

本書の最大の特徴は電子書籍の形態をとっていることである。スマホ、タブレット端末、PCなどにダウンロードしておけばいつでも調べることができる。電子書籍の利点を生かし、臨床画像を多数の動画で観察することができ、自分で診断を体験することも可能である。このような核医学の教科書は他に類がなく、本書ならではの特徴である。

刊行に際し、ご多忙のなかを画像収集や編集にあたっていただいた国保旭中央病院放射線科の磯貝 純先生、山口 晃裕先生、板橋 幸男先生に心から御礼申し上げます。また、本書のイラストをご担当いただいた青梅市立総合病院放射線科の小澤 茜先生に深く感謝申し上げます。

平成30年7月

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科  
画像診断・核医学分野 教授

立石 宇貴秀